

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

パラディーソ神宮寺

日付 平成 21年 2月 17日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

玄関に入った途端に5年前に最初に訪問した時と同じ気持ちにさせられた。毎日キッチンと清掃に心がけている様子がすぐに伝わってくる。日本古来の木造建築をベースに設計されたホームが大切に使われていて、住人達の品位が保たれている印象を感じさせる。

90才を境にその前後の年齢になった利用者が多く、高齢化が進んでいるが重症化した人が多いという雰囲気は感じられない。食事・排泄・入浴などで日常生活が自分でかなりできる人が多いこと、利用者夫々の固有のコミュニケーションが取られていて、ゆったりとしているが夫々の自主性が大事にされているようだ。この二つの側面からも、日常の自立支援に向けたケアの水準の高さが推し量られる。このホームに外部評価で訪問するようになって数年になるが、身体機能・自立支援の徹底したケアには度々感服するような場面に出会った。だからこそ「ADLのレベルが低下した」と言われても、「殆ど変化が見られないなァ」と思ってしまうのだろう。

92才の男性利用者に「これまで生きてきて一番良かった時代は何時だった?」と聞いてみたところ、即座に「今じゃなァ・・・!」と返事が返ってきた。「わしやー、いつも済んでしまったことより、今を大事にしたい」のが持論だというのが、それにしても現在の住んでいるこのホームの生活の落ち着きが反映している事の証でもあると感じさせられた。

これまでで、このホームでは5人のターミナルケアを行なって看取りを経験してきている。それは、利用者の意思も尊重しつつ家族の意向を確かめながら実践してきたからできたものであり、5年半の貴重なこのホームの歴史である。そのことは、定着率の高い職員の自信に繋がっていることをうかがわせる。

今年度の計画策定に当たって「これまでの基礎作りの段階という位置づけを超えて、充実期へ向けて各種業務を再点検しよう」としている。外部評価員である私たちの認識とその点で一致するものがあり、新しい飛躍に向けての模索を始めようとしている事に共感する。

異業種から参入された代表者でありながら、我々との意見交換に謙虚に耳を傾けられながら「地域の福祉力を高めるために、ここを拠点にしよう」という意思表示をされたことに、このホームの方向性の確かさを感じさせられた。

**特に改善の余地があると思われる点**

ホーム運営の基礎作りの段階から、次の飛躍へ踏み出そうとしている。その中で、定着度の高い職員同士の阿吽の呼吸で運営できていた面もあり、一定の慣れが出てきていることも否定できない面があるのであろう。新人の採用もあったことを契機に職員会議を定例化して持つことにして、職員全体の意思をまとめていこうとしている。勇気を出して新しい業務に挑戦したり、違った手法を試みてほしい。試行錯誤を繰り返し、職員全員で評価し合っていけば、新しい発見に出会えるかもしれない。「現状維持」と「思い切った変革」にバランスを上手に舵取りしてほしい。

## 2. 評価結果 (詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善事項は記載されていないが、市街の住宅地に建っているホームの特性から、外の世界へ普段着で気軽に出かけにくい雰囲気があるが、散歩や買い物行動などを生活の場として広げる事を望みたい。</p> <p>2、全体的に見て…：地域の高齢者への貢献が代表者の厚い思いである。地域との交流の点では、具体的に昨年秋祭りの神輿がホーム前に立ち寄ってくれて、滞留して利用者を喜ばせる事などが実現している。その上にあつたのホーム運営の理念は「ゆったり安心して過ごせる場の提供」であり、ケア方針は「利用者の残っている能力を大事にして、可能な限り自立して生活できる支援」をめざしている。そして、利用者夫々の個性がおおらかに尊重されていることがうかがわれる。時として、主義やわがままがぶつかることもあるが、遠慮のない自由さがある時折の諍いも見られるが、暫くするとまたお互いわかまりなく過ごしている。「利用者の皆さんが遠慮されて縮こまってしまうまいと、親子や姉妹のように自我を出し合えるホームになっているのが自慢です」と話すホーム長の言葉に、このホームが開設以来目指しているものを感じた。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善項目はない。年配者の生活感に沿った場作りが平素から留意されているようだ。</p> <p>2、全体について…：木造作りの特性を活かした設計がこの数年を経て、お年寄りにとって住みやすいかを教えてくれているようだ。木目を通して感じられる空気の流れが自然に感じられる。このホーム作りの環境の意義を証明している例がここにある。南に面したりリビングに射し込む陽射しは、冬とは言いながら小春日和の雰囲気心地よい。</p> <p>各部屋にマイルドと洗面台があり、部屋のデザインや設えも夫々の個性や身体状況に合わせて変えてある。「ワー！」といった弾けるような笑いは余り聞けなかったが、お隣さん同士の思いやりのある会話や、自分が歩んできた話など、穏やかな一時を暫く共に過ごした。仲間の輪に入れずに一人になることのあるさんに対して、孤独感を感じさせないよう職員が気配りをしている。高齢ではあるが男性が2人居るバランスもあってか、家族的な程よい自然な空気が漂っていて、居心地の良さが伝わってくる。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：これまで5年の経過を踏まえ、また新入職員の採用などを機に、職員会議の定例化などを図り、今後のチームケアを重視してのケアサービスの向上を図ろうとしている。</p> <p>2、全体的に見て…：「歩く」「自分の足で立つ」「口から食べる」「排泄は自分の力で」その他、数多くの身体機能の自立が、生きている自尊心を保つ事ができるという信念のように見えてくる。この点こそ、このホームの最も優れた業績のひとつといえるだろう。かって評価活動で提案した、利用者の発する生の言葉が業務記録などに記載され始めており、イキイキとした各人の状況が読み取れるようになって来ていて、職員全体で各人の様子が共有できるようになっている。</p> <p>利用者の構成が違う二つのユニットは、夫々違った雰囲気を醸し出しているが、それは利用者の個性や相互の関わり合いの違いから、当然生まれてくる家風のような差かもしれないと感じた。</p> <p>記録類から利用者本人や家族の「あしたい、こうしたい」といった具体的な思いや・悩みもリアルに伝わってくるようになったので、職員が五感を研ぎ澄まして新しい発見をしながら、職員会議などの機会に自主的な「一人ひとりの力が今以上にどうしたら発揮できるか」といった提案をするなどして、新しい可能性を見つけ出していく取り組みになっていくことを期待したい。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：評価不能項目が一つあるが、地域の中で役割を果たす課題を慎重に模索しながら、新しい段階に向き合おうとしている姿勢の中で一歩を踏み出してほしい。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者個々の性格の尊重や残っている能力の活用などを日常の生活の中で着実に生かすという事の積み重ねが、着実にこのホームの安定した姿が出来上がっているといえよう。それは、利用者家族が新しい利用者を紹介するという結果に現われているともいえよう。他のホームの生活を体験した上で、ここへたどり着き、ここで看取りを終えた介護家族の一人は、感謝を込めて「落ち着いて母が最後までここで過ごせた事がうれしかった…」と述べておられる事にこのホームの地位が如実に示されていると感じた。</p> <p>その実績を抛り所に、地域での認知症ケアについての啓発活動やグループホーム業界の中で一層の指導的役割を發揮してもらいたい段階に来ているなあと感じた。</p>		